

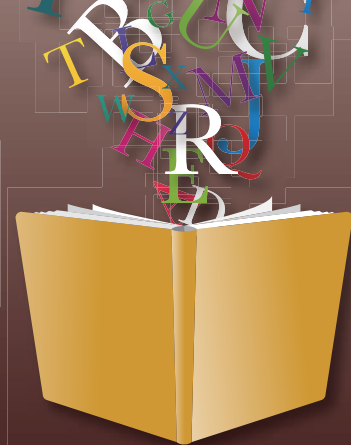
図書館だより

Information Wave No.25 2014年

第25号 2014年9月20日発行

関西福祉大学図書館

〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3 Tel.0791-46-2506 Fax.0791-46-2535



図書館のいっそうの充実を求めて

図書館長
発達教育学部 教授 森川 直



関西福祉大学図書館は開設18年目を迎えている。社会福祉学部、看護学部に加えて本年度から発達教育学部が新設され、大学院修士課程2研究科と併せて、福祉・教育・看護の分野における高度専門職業人の養成をめざして大学はますます発展している。これに伴って本学図書館もまた、キャンパス中央、1号館正面という立地のよさを活かし、更なる充実が期待されている。

2014年3月現在、本学図書館の蔵書数69,600冊（うち外国書9,507冊）、受入雑誌数277種（うち外国書97種）、受入新聞種数17種（うち外国紙4種）、視聴覚資料3,191点（DVD, CDのみ）、2013年度の図書受入冊数は年間2,443冊で、1、2年後には図書収容能力（雑誌等を含む）7,2万冊の限界に達すると考えられる。

図書館入館者数は、昨年度（2013年度）61,461人、館外貸出総数は15,536点にのぼる。そのうち学生貸出冊数は年間12,714冊で、1日平均47冊、学生一人当たりの年間貸出冊数は13冊である。インターネットによる蔵書検索が可能になり、図書自動貸出機の設置、オンラインデータベース化（契約数は12種類）により便宜が図られている。また、カードを使った入館管理システムの導入により、図書館の安全な管理・運営体制が維持されている。開館時間は、平日は午後9時まで、土曜日は午後5時半までである。図書館職員5人に加えて、学生アルバイトが6人いる。

2013年9月の図書館の改修により、パソコンスペースおよびグループ学習室が設置され、コンピューターを使っでの授業や自主学習の機会が多くなったこと、ゼミや個別学習のための学習空間ができたことは特筆されるべきことであり、このところ学生の利用も増えてきている。さらに、外部に開かれた図書館として、赤穂市民をはじめ地域への開放を進め、2013年度から高校生にも開放しており、図書館インターンシップの受け入れも行っている。

今後の課題として、第一に、福祉・教育・看護の分野における高度専門職業人の養成をめざす以上、各専門分野に必要な学術書、雑誌等を系統的・計画的に収集し、利用者のニーズにできるだけ応えられるようにすることである。これが大学図書館の本来の使命でもある。

第二に、ここ1、2年のうちに図書収容能力が限界に達することを考えれば、蔵書スペースおよび学習スペースの確保ということが喫緊の課題となる。さらに情報化に伴い図書館機能が多様化し図書館の役割が増すことも考えて、改修後ではあるが早急に図書館の増・改築に向けての検討が必要であろう。

第三に、これからの図書館は、蔵書の保管のみならず、大学のさまざまな情報センターとして多様なニーズに応え、利用しやすい、機能的なサービス機関でなければならない。サービス機能の充実のためには、設備の整備とともに、専任スタッフの充実が望まれる。

知の創造のための学習空間として、本学図書館のいっそうの充実が求められる。



近刊著書

相談援助演習 —ソーシャルワーク演習 第2版

社会福祉学部 准教授 谷川 和昭



著者：福祉臨床シリーズ編集委員会 編
秋山 博介、谷川 和昭、柳澤 孝主
責任編集

出版社：弘文堂
発行年月：2014年1月

みなさん、こんにちは。はじめまして、の方もおられるかもしれません。いえ、実際にはそういう方が多いとも言えますね。私は2014年1月に『相談援助演習—ソーシャルワーク演習 第2版』を弘文堂の“社会福祉士シリーズ”の21巻目として編者の一人として出版しました。そのことで、この『図書館だより』に執筆せよとの打診があったわけです。

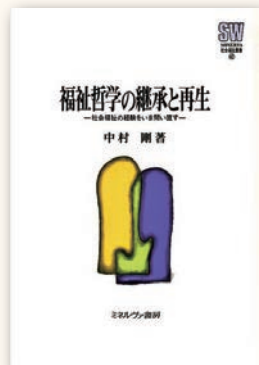
本書は、メイン・タイトルにもあるように社会福祉士を目指す方が「相談援助」の演習を行うためのテキストです。ただし、狭い意味での相談援助のみ視野に入れているものではありませんので、サブ・タイトルとして「ソーシャルワーク」を冠しています。ソーシャルワークというのは、社会的仕事として個人、集団、組織、地域への援助を行うための体系的知識、実践行為の枠組みと申せましょう。

ところで、本書の初版は2008年12月にまで遡ります。その前年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が20年ぶりに改正され、そのことを契機として本書出版の企画が持ち上がりました。新カリキュラム本邦初のテキストとして、2009年度入学生以降、多くの養成機関でテキスト採用していただいています。初版を含めると7刷、累計約10,000万部発行ですから、この類いのものとしては異例の販売実績と言えるかもしれません。

もう間もなく、2009年度からの新カリキュラムの見直しが始まろうとしています。しかし、本書が“本邦初の相談援助演習テキスト”として、これからも一定の寄与がなされていくのであれば、私はそれだけで幸せです。

福祉哲学の継承と再生 —社会福祉の経験をいま問い直す

社会福祉学部 准教授 中村 剛



著者：中村 剛 著
出版社：ミネルヴァ書房
発行年月：2014年3月

哲学とは、普段は当たり前であるが故に問われない事柄について、その根源まで遡って問い考え続ける営みである。本書は、このような意味で福祉について哲学した思考の記録である。その中で、哲学ではあるが通常の哲学とは区別される「福祉哲学」という一つの哲学の在り方に気づいた。

哲学はギリシアで生まれたロゴス（言葉や論理）を用いて行われる。そこでは論理・秩序が重んじられる。しかし、そのロゴスは、必ずしも人を行動へと駆り立てる訳ではない。言葉と行為は異なる。これに対して、福祉哲学はヘブライで生まれたダーバールという別の言葉、出来事と言葉が一体になった言葉によって営まれる。人間らしい暮らしを剥奪されている人が、その存在を通して（身をもって）発している言葉（ダーバール）によって提示される問いがあり、その問いに行為をもって応えながら生じる思考がある。こうした問いと思考が福祉哲学である。

徹底的に問い考えるとはどういうことなのか。福祉哲学とはどのようなものなのか。こうしたことに関心がある人に読んでもらいたい。

不登校の子どもの生活と親・教師の支援 —はじめて不登校を引き受けた親・教師への親の会からのアドバイス

社会福祉学部 准教授 八木 修司



著者：佐藤 修策、濱名 昭子、浅川 潔司 編
出版社：あいり出版
発行年月：2014年 1月

小中学生の不登校は約11万2千人、高校生は5万6千人（平成23年度文部科学省調査）となっている。小中学生はピーク時の13万人と比較すると減少しているが高校生は微増である。いずれも少子化で子ども人口が減少しているため大幅減少とはなっていない。

編著者は私が大変お世話になった先生方であるが、特に佐藤修策先生は日本において初めて不登校（当時、登校拒否と呼ばれていた）に関する学術論文や著書を出された方である。子ども心理臨床の草分け的存在であり、50年以上不登校の子どもたちやその保護者、教師などの方々に援助活動を続けておられる。この書籍は佐藤先生が長年続けておられる不登校児童・生徒の親の会である「愛和会」の紹介が綴られているが、サブタイトルにあるように子どもが不登校になった際の親や教師における基本的な支援が具体的に事例も交えて書かれている。また親同士や教師と専門機関の連携についても詳細に記載されている。不登校児童・生徒の関係者だけではなく社会福祉士や精神保健福祉士などを目指す学生たちにもわかりやすい教科書である。

私は佐藤先生に約30年間で指導を受けている。第4章を少しだけお手伝いしたがご恩に応えたいと言えない。80歳を越えられたが先生の健筆は衰えないのに驚嘆する。今後も日本の子ども心理臨床のためにご活躍願いたい。

新しい日本の歌 5

発達教育学部 教授 古瀬 徳雄



著者：古瀬 徳雄 作曲
出版社：マザーアース
発行年月：2013年11月

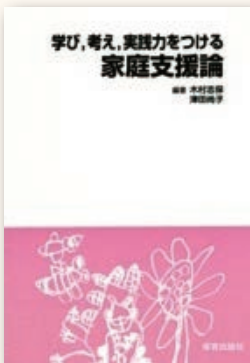
「新しい日本の歌」も第5集の出版となった。鈴木漠の詩「石工」「Libera me」を選ぶ。この2詩の抽象的な詩を咀嚼すると、その世界が意外にも、起源が通じ合っ て見えてくる。

人類が二足歩行を始めた時、手に入れたのが、「火」と「ことば」と「音楽」である。手が空き、火を起こし、火の周りに集まり、大いなる働きに向かって、人々は祈りをささげた。祈りが「ことば」になり、その時、母親の胎内で聴いたあのリズムを、木や石でたたき「音楽」となった。

「石工」からの石、「Libera me」からの火が詩の素材であり、作曲構成上の動機となってくる。石は土から生まれた地球の贈り物であり、地球の歴史を刻み、じっと波音や虫の声や人の叫びも聴いてきた。削れば、聴こえてくるのだ、その音が、声。その石に名前が刻まれ、ひとつの魂が宿っても、人もまた生まれた土に還る。石をたたけば火が起こり、音が絶えても、その灯りは表も裏もなく、無心に燃え、それがつづく限り、人のこころを解き放っていくのである。「Libera me」の炎は16分音符音型でゆらぎ、「石工」の削る音は、8分音符の連打で吊鐘から永遠の刻みとなり、これを演奏家たちがみごとに表現した初演となった。

学び、考え、実践力をつける家庭支援論

発達教育学部 講師 原子 純



著者：木村 志保、津田 尚子 著
出版社：保育出版社
発行年月：2014年 3月

本書は、保育士養成課程における必修科目である「家庭支援論」に対応することを目的として出版されたものである。

「保育所保育指針」（2008〈平成20〉年改訂）においては、保育所の役割や機能を明確にし、保育所が地域における保育の専門機関として社会的に責任を果たすことが明記されている。また、「幼稚園教育要領」においても、入園当初の幼児に対する配慮・家庭との連携の必要性、子育て支援のための幼稚園内体制の整備や多関係機関との連携・協力性などの必要性などが示されている。

本書では、保育実践に活用される子育て家庭への支援の内容と方法について、基礎理論および具体的な実践事例を含め、読者自身が①専門知識を使って論理的に物事を考え、実践的な実力をつける、②「書く（書き込む）」ことによって専門知識を使いこなす実力をつけることができる、という内容構成となっている。また、「現場の声」や事例問題、演習問題などにより、読者自らが主体的に学習できるような構成となっている。

保育士養成課程で学ぶ学生のみならず、幼稚園・保育所を含むさまざまな保育・教育・福祉現場での実践において、子どもや保護者と向き合い、支援に携わる専門職の実践において、活用できる一冊である。

新任教員による 著書紹介

「言語力」をつける

社会科授業モデル 小学校編

発達教育学部 教授 岩田 一彦



言語力は方法知の習得によって育つわけではない。言語力育成の基本は、他の人への説得力をつけることである。人はどのような時に説得されるのだろうか。それは事実の持つ情報と事実間の関係に納得したときである。

社会科では、内容知につながる情報を習得させ、情報間の関係を納得的に分らせる授業が展開される。“社会科は言語力育成の中核教科である”ことを、本書では理論及び授業モデルで示した。

著者：岩田一彦、米田豊 編著
出版社：明治図書出版
発行年月：2008年3月

戦後作文・綴り方教育の研究

発達教育学部 教授 菅原 稔



兵庫県下における戦後作文・綴り方教育の理論・実践の特質を、優れた実践者のありよう、同人誌にみる展開、学校・学級文集の意義と特質等の視点から分析・考察したものです。

著者：菅原 稔 著
出版社：溪水社
発行年月：2004年3月

理科授業の基礎基本—新任教師のしごと

発達教育学部 准教授 金沢 緑



子どもたちが自然事象に接したときに、実感を伴って理解させることを普通の教師が普段の理科授業の中で行う事が大切なのです。児童が自分の課題をみつけ、どのように検証するか、ワークシートやノートはどんなものを用いればよいのか、表やグラフをどの単元で、どんな視点を持って活用すればよいのかを具体的にわかりやすくアドバイスし、解決するヒントがあります。体験から規則性を学び、科学的に整理すると論理ができていくという教科の特性がある理科ではいくつかのポイントを押さえれば達人への道もそう遠くはありません。コツは、思考力を育成し表現させる授業づくりを行うことです。

本書を通じて自然に親しみ、「不思議」と感じたことを自分の力で解決していける子どもを育ててください。理科の楽しさを味わって、子どもと共に学ぶ理科授業を創っていこうとする先生の必読書です。

著者：金沢 緑 著
出版社：小学館
発行年月：2010年3月

生きがいについて

社会福祉学部 教授 赤木 正典



著者：神谷 美恵子 著
出版社：みすず書房
発行年月：2004年10月

この著書の初版は1966年である。神谷美恵子（精神科医、長島愛生園（国立・ハンセン病療養施設）に15年勤務。神戸女学院大学教授、津田塾大学教授等歴任）は、貴重な臨床経験と自己研鑽を踏まえて、この書の中で、問いかけている。「いったい私たちの毎日の生活を生きるかあるように感じさせているものは何であろうか。ひとたび生きがいをうしなったら、どんなふうにしてまた新しい生きがいを見いだすのだろうか」先生は、常に苦しむ人、悲しむ人のそばにあらうとした。

また、著書の随所にケースワークの本質を示唆する、あなたと共に歩む、話せる相手が側にいることであり、クライアントに心の深層部分で信頼感や安心感を与えることの大事さを問うている。本書は、人が生きていくことへの深いとおしみと、広い思索に支えられ、生きた思想の結晶である。これまで多くの人を慰め力づけてきた永遠の名著である。

ひょうごの民話

社会福祉学部 教授 角野 幸代



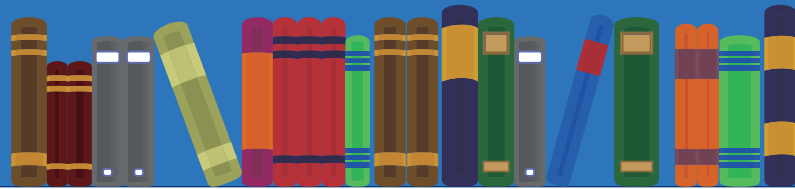
著者：「ひょうごの民話」再編復刻編集委員会・兵庫県学校厚生会 編
出版社：神戸新聞総合出版センター
発行年月：2012年7月

本書は、兵庫県内の神戸・阪神・東播・中播・西播・但馬・丹波・淡路の各地の民話を編纂したものです。一話一話が完結した短いお話なので、興味のある土地の民話から読み進めることができます。

私は出身地・東播の「橋のお地藏さん」という民話を真っ先に読みました。これは、溝のそばに立つお地藏さんにお参りをして、帰ろうとした信心深いおばあさんが、腰痛のため、溝をまたぐことが出来ずに困っていると、お地藏さんが、溝にうつ伏せになって、つまり「橋」となって、おばあさんを渡し、同時におばあさんの腰痛も治したというお話です。現在も橋のお地藏さんのご利益を受けようと、遠方からもお参りが絶えないそうです。

このように民話は、地域の語り部により、今に伝わる物語ですが、なつかしい郷土のことばや実際の地名が出てきて、まるで祖母に語ってもらっているような暖かで豊かな気分になります。皆さんも、昔と今をつなぐ民話の世界を紐解いてみられてはいかがでしょうか。

新任教員による おすすめ本



虚空遍歴

社会福祉学部 教授 成山 文夫



著者：山本 周五郎 著
出版社：新潮社
発行年月：1966年9月(上巻)
1966年10月(下巻)

院生の頃、修了後の職の見通しが定かでなく、演習にも研究にも身が入らない中で、題名に引きずられ続ける思いで読んだ書物です。主人公「中藤沖也」が自分の求める仕事に全情熱を打ち込んで「虚空」の中を突き進んでいく姿と、彼を陰ひなたから支え、蝶へと変身するもう一人の主人公「おけい」の姿に感銘を受けました。

この書物を、私はある女性に勧めました。帰郷する電車の中で、読書に夢中になっている彼女に興味を持った一人の見知らぬ老人が話しかけ、後日、実家の電話番号を探し出し、甥の結婚相手にどうかと両親に申し出たそうです。彼女とは、後に私の妻となった人です。私にとって二重の意味で忘れられない書物です。

生きることと考えること

発達教育学部 准教授 小野間 正巳



著者：森有正 著
出版社：講談社
発行年月：1970年11月

私たちは、日々様々なことを感じ、考え、そして、伝えたり、表したりして、周りの人々とかかわり生きています。そうした日々の生活において、ふと立ち止まって自らを振り返り、悩んだり、迷ったりすることが誰にでもあると思います。そんな時に、読みたい本の一冊が本書です。著者森有正は、自らの人生で考えたことや経験をもとにして、生きることの意味を説いてくれます。その一説に「人間は経験をはなれては存在しえない。そして、ほんとうによく生きるには経験を未来に向かって開かねばならぬ。」とあります。単身パリに渡り、自らの経験を通して思索したことに基づいて、生きることの真の意味を教えてください。それは、身の回りの出来事をありのままに受け止め、借りものではなく、自らの力で考えを作り上げることでのみ生きることの意味は明らかになることを教えてください。若いときには是非一読をお勧めします。

はじめての特別支援教育

—教職を目指す大学生のために

発達教育学部 講師 市橋 真奈美



著者：柘植 雅義、渡部 匡隆、
二宮 信一、納富 恵子 編
出版社：有斐閣
発行年月：2010年3月

特別支援教育の推進は、教師の中のある限られた者だけが担うものではなく、学校内のすべての教師や関係職員によって行われるものであるという認識も定着して来つつありますが、目の前の子どもたちの状況や実態にとまどいを覚え、その対応に苦慮している教員も多くいます。

本書は、特別支援教育の理念とシステム(第I部)、子どもの理解と指導・支援(第II部)、保護者や関係機関との連携(第III部)の3部から構成されており、特別支援教育のエッセンスがわかりやすくまとめられています。教職を目指す人はもちろんですが、学校にとっての関係機関となる福祉施設や医療現場で働く人にとっても大変有用な内容です。連携や協働を有効なものとするための第一歩は、別の職種や機関のことを理解しようということから始まります。ぜひ一度目を通してください。

スヌーピーこんな生き方探してみよう PEANUTS KEY WORDS

発達教育学部 教授 山本 博和



著者：チャールズ・M.シュルツ
コミック
谷川俊太郎 訳
ほしの ゆうこ 著
出版社：朝日新聞社
発行年月：2005年4月

朝日新聞日曜版に2000年10月より2001年7月まで掲載された『21世紀へ伝えたい宝物』シリーズを元にしたものです。

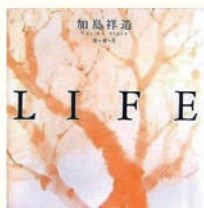
主人公のチャーリー・ブラウンやスヌーピー、そしてルーシーやライナスなどの仲間たちの姿や言動から、子どもの純真な心がひしひしと伝わってきます。それは、大人の私たちに対する人生への様々なメッセージでもあります。そのことは、1950年10月に初めて新聞に掲載されて以来、今まで世界中の人々に愛され続けてきた所以でしょう。

谷川俊太郎さんが、吹き出しを見事な日本語に訳しています。また、ほしのゆうこさんが非常にわかりやすい解説をつけています。PEANUTSは、楽しいとき苦しいとき…、どんなときに読んでも人の心にすーと入ってくる不思議な力を持っています。最後に本書の中から一文を載せておきます。

“WHEN YOU'RE YOUNG, YOU THINK A LOT ABOUT THE FUTURE”

LIFE

看護学部 准教授 川田 美由紀



著者：加島 祥造 著
出版社：PARCO出版
発行年月：2007年12月

「LIFE」は、著者が「老子」に出会い、信州・伊那谷で生活をしながら、「老子」の言葉や大自然を通して感じたことを、詩と著者自身が描く墨彩画で表現した詩集です。そこには一貫して、自然の包み込む優しさと柔らかさ、そして自然とのつながりをおして人間の「命」の在り方が詠まれています。現代は、いじめや差別、競争社会、利害による人間関係など、生きづらい社会ですが、誰もが、海や山や大地の大自然に包まれたとき、自分が自然の中に溶け込み、こころ穏やかに「無」になっていくのを感じたことでしょうか。本書から、自然のエネルギーが一人ひとりの「命」の根底に流れている愛であること、私たちも生かされていることに気づき、心を自分自身の内側に向け、いまをそして変化を受け入れることで、優しく柔らかな心になれるような気がします。「LIFE」を通して「老子」と出会ってみませんか。

ペコロスの母に会いに行く

看護学部 准教授 清水 暁美



著者：岡野 雄一 著
出版社：西日本新聞社
発行年月：2012年 7月

認知症に関する本は、専門書から体験談まで実に多く発刊されています。職業柄多くの認知症患者さんと関わってきましたし、私の身の回りにも、認知症の家族の介護をしている人が多くいます。身内であるがゆえに、認知症であることはわかっている、優しくなれないこともあり、できない事、わからない事への歯痒さから、ついつい大きな声で怒り声を上げたり…、その後は、そんな自分を責めたり…。そんな現実がリンクしてしまうような1冊です。読んでいて、ほのぼのとしたり、心がキュンとなったりします。

認知症の患者さんや家族の思いを理解するにもお勧めできる1冊だと思えます。

看護覚え書

—看護であること・看護でないこと改訂新版 第7版

看護学部 准教授 前川 泰子



著者：フロレンス・ナイチンゲール 著
湯橋ます、薄井 坦子、
小玉 香津子、田村 真、
小南 吉彦 訳
出版社：現代社
発行年月：2011年 1月

1850年代、クリミア戦争で兵士が命を落とす一番の原因は、戦いによる負傷ではなく、療養する病院の不衛生による伝染病でした。ナイチンゲールが何をどうやって傷病兵の死亡率を42%から2%程度まで引き下げたのか。現代の看護の礎を築いた彼女が大切にされたことは、新鮮な空気、太陽の光、清潔さ、食事から、人のひそひそ話や看護師のパタパタ走る靴音の影響におよぶまで、「人間は、環境を整えることで体力の消耗を最小限にし、自然治癒力を高められる」という。『看護覚え書』は、訳本がゆえ、最初は読みにくいかもしれませんが、一度しっかり読んで欲しい本です。そうすれば、後々、目次を開くだけで、「人の健康な生活を整える」とは…その基本に立ち返ることができます。

「平穏死」10の条件 -胃ろう、抗がん剤、延命治療いつやめますか?

看護学部 講師 長谷 起世子



著者：長尾 和宏 著
出版社：ブクマン社
発行年月：2012年 7月

我が国は、超高齢社会に突入した。このことは、単に高齢者が増えるということだけでなく、本格的な多死社会に入ったということである。「自分はどこで死にたいか」とか「家族をどこで看取りたいか」はとても重要な決断である。その一番大切なはずの「最期の時」が医療者にお任せになっているのが日本人である。日本人の自己決定や死生観は脆弱である。判断を人の手にゆだね、死に対して自己決定を行わない傾向がある。自分が終末期になった時、治療や療養・延命処置はどのようにするのかなどを本人・家族・医療者によく話し合い記録に残しておくという、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）概念が提唱されている。このように著者は、地域医療（在宅医療）に携わる医師としての立場で、「平穏に最期を迎える＝平穏死」について、多くの看取りの経験から、その条件について述べられている。看護や福祉に関わる者として、一読に値する著書である。

東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ

看護学部 助教 西村 美里

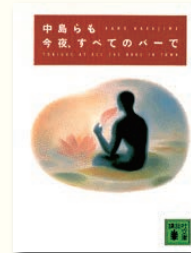


著者：遥 洋子 著
出版社：筑摩書房
発行年月：2000年 1月

学生の時、先生から自分の能力についていろいろと厳しい指導を受けた時、すごく落ち込みながら読みました。でも!! 読みすすめていくうちに、落ち込む前に努力が足りなかったと気付かされた本です。最近サボり気味だなと感じたら読むようにしています。内容は難しい所もありますが、テンポがよくて一気に読めますよ!

今夜、すべてのバーで

看護学部 助教 増尾 美帆



著者：中島らも 著
出版社：講談社
発行年月：1994年 3月

中島らもさんの著書は、不思議なものが多いです。その中で、今回ご紹介する本は、『今夜、すべてのバーで』です。簡単にあらすじを言うと、35歳の主人公が、アルコール依存症によって入院治療後、退院するまでの物語です。それだけのことなのですが、なぜか物語に引き込まれていきます。また、1991年初版の本なので、治療方法などは現在とは違いますが、読み通すことでアルコール依存症について知ることができます。

では、中島らもさんの不思議な世界を垣間見てください。更にその世界の扉を開きたい方は、『ガダラの豚』（集英社文庫）をお勧めします。

学生選書を実施しました



本年度前期に、初めての試みとして学生選書を行いました。学生の目線で図書館に置いてほしい本を選んでいただきました。前期は社会福祉学部1名、発達教育学部1名、看護学部2名、合計4名の学生が参加し、実習や卒論に役立つ本からお菓子作りの本まで、様々な本を選んでいただきました。そして、その中から特におすすめの本を紹介していただきました。



それでも僕は夢を見る

社会福祉学部3年 木村 幸乃

著者：水野 敬也 作/鉄拳 画
出版社：文響社
発行年月：2014年3月

主人公の「僕」と、彼の夢を擬人化した「ユメ」。ユメは「夢は必ずかなう」と若い僕を励ましますが、僕は厳しい現実負け、ユメを手放してしまいます。そしてそのまま年老い、病室に横たわった僕の前に、かつて捨てたユメが戻ってくる——という内容で、夢を抱くことの大切さと生きることの尊さを描いています。

著者は、200万部を超えるベストセラー『夢をかなえるソウ』の作者、水野敬也と、パラパラ漫画で話題のお笑い芸人、鉄拳です。文章でしか伝えられない強いメッセージと、言葉では伝えられないものに感動します。パラパラ漫画のように読みやすく、本を読むのが苦手な人にもオススメなので、ぜひ一度読んでみてください。うるっとくるので、人目につかないところで読んだ方がいいかも…。



脳のなかの万華鏡 -「共感覚」のめくるめく世界

看護学部4年 金澤 翔子

著者：リチャード・E・サイトウィック、デイヴィッド・M・イーグルマン著
山下 篤子訳
出版社：河出書房新社
発行年月：2010年8月

文字や曜日に色がついている、数図が空間に並んで見える、味や匂いに形がある、音を聞くと色が見える…そんな感覚を感じたことはありませんか？

何年も前から共感覚者は存在していました。しかしその感覚を持っていない大多数により、共感覚についての研究は進まず、共感覚者は少し変わった人として捉えられることが多かったのです。

心理学を勉強していたときにはじめて知った共感覚という世界。もし数字や文字、味や匂いに色があって、形があったら、脳の中は本当に万華鏡のような世界になっているのでは？できるのならば、私も体験してみたい世界です。

このような感覚を持っている方、どんな世界なのか興味のある方、ぜひ読んでみてください。



僕は自分が見たことしか信じない

発達教育学部1年 前 又斗

著者：内田 篤人 著
出版社：幻冬舎
発行年月：2013年6月



この本は、日本代表の内田篤人選手がサッカーとの出会いから日本代表までへの人生の中でのサッカー以外の大切な経験などが書かれています。

内田選手はこの本を書くにあたり、様々な葛藤があったそうです。ただ、この本を通して、「23歳のどこにでもいそうな平凡な僕でも、試行錯誤を繰り返しながら人生を歩んでいっているのだと知っていただけだけでもうれしいです。」と書かれています。

内田選手は若いうちから日本代表に選ばれ、大変すごい経験をしています。また、それと同時に多くの苦勞もあつたはずですが、内田選手は、一人ではここまで絶対にいけなかった。周りの人々や大事な親友がいたからこそここまで来られたと言っています。私も内田選手と同じで一人では絶対に生きていけなかったと思います。

この本には人生の中での本当に大切なものについて書かれていますので、ぜひ一度読んでみてください。



社会人大学院へのススメ

—四世代体験記三十、四十、五十、六十代のチャレンジ

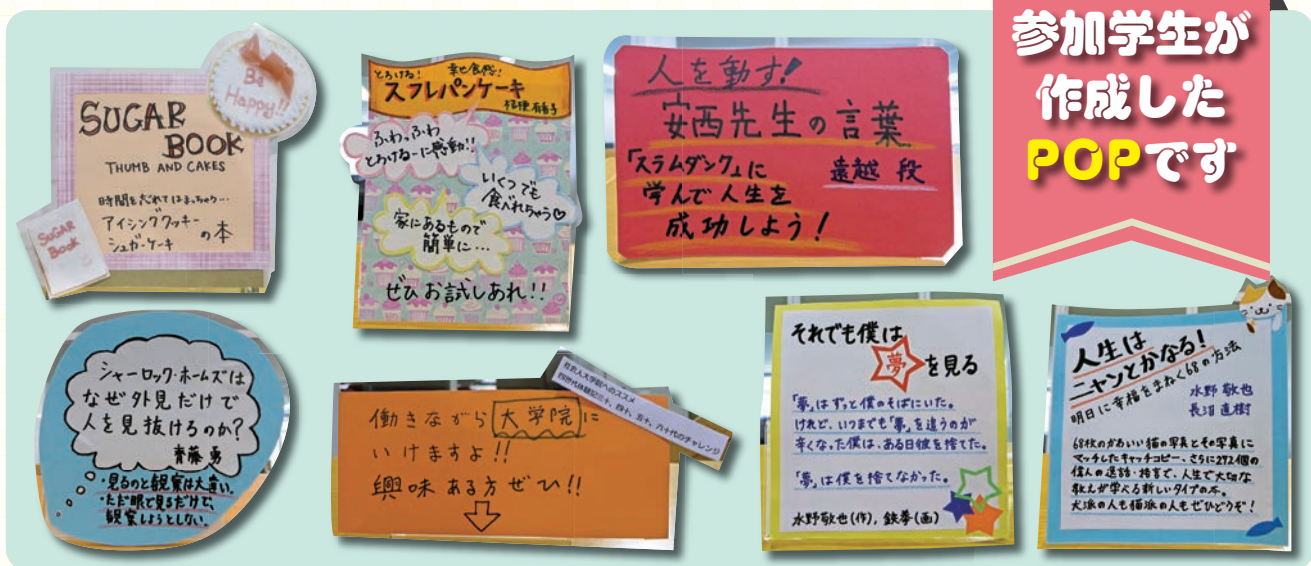
看護学部4年 藤井 崇敬

著者：商都ななばから翔会 編
出版社：大阪公立大学共同出版会
発行年月：2008年10月



この本は、社会人大学院へ進学した人達の体験記について書いてあります。

本の登場人物に共通していることは、個人のライフスタイル（仕事や子育てなどと両立）に合わせ、大学院へいき、知的好奇心をみだしているという点です。つまり、この本を読み、自分自身に向上心があればいくらでも学べる場があるということを知りました。大学卒業後の進路として1つの選択肢として考えてみるのもいいと思います。ぜひ、こういった本に興味がある人にお勧めです。



参加学生が作成したPOPです

学生選書は後期も実施する予定です。開催については掲示にてご案内いたしますので、どうぞご応募ください。

赤穂市立図書館で「おたのしみ会」をやっています！

社会福祉学部 教授 半田 結

毎週土曜日に行われている赤穂市立図書館のおはなし会には、たくさん子どもたちと保護者の方々がいらっしやいます。このおはなし会に関西福祉大学の学生たちが参加させて頂くようになって、今年で3年になります。現在では第5土曜日は「おたのしみ会」と称して、絵本を読むことはもちろんのこと、みんなで工作を作って一緒に遊んだり、お話に合わせて体を動かしたりと、何が出てくるかわからない“おたのしみ”を学生たちが企画しています。



この活動がスタートした時は、絵本の読み方を練習したり、ペープサート（紙人形劇）を作ったり、かなり時間をかけて準備していましたが、今では、数回の打ち合わせと準備で、子どもや保護者の方々と楽しく過ごせる時間を計画できるようになってきました。中心となっている子ども福祉専攻の学生たちの実力がそれだけついてきたのでしょう。



3回生が実習等で忙しくなり始めた頃、新たに2回生が参加し、先輩にリードしてもらいながら活動をすすめました。はじめて参加するメンバーにとっては、子どもたちにどのように接したらいいか、保護者の方にどのようにお話ししたらいいか、かなり緊張した体験となったようです。とはいえ、自分たちが思っていた以上に熱心に工作に取り組み、無邪気に遊ぶ子どもたちの姿に、学生たちは大きなエネルギーをもらったようです。

おはなしを聞く子どもたちの真剣な表情に、保育者を目指す決意を新たにしたに違いありません。



情報発信

データベース講習会

本年度前期に EBSCO 社と D1-Law.com のデータベース講習会を開催しました。

D1-Law.com の講習会は今回が初めての開講でしたが、各種法令や判例の調べ方を分かりやすく学ぶことができました。

データベース講習会は今後も定期的で開催する予定です。開催については掲示板にてお知らせしますので、どうぞご参加ください。

検定教科書コーナー設置

検定教科書コーナーとして、小学校の検定教科書と学習指導書を設置しました。

図書館ガイダンス

図書館ガイダンスは随時申し込みを受け付けています。図書館の利用方法や文献検索の方法について詳しく知りたい方は、ぜひ図書館カウンターにてお申し込みください。

編集後記

今回も、先生方や学生さんに著書やお勧め本をご紹介いただきました。今年度は初めて、学生の目線で選書する「学生選書」を教育後援会からの助成で実施しました。各学部の学生4名が、インターネットからバラエティーに富んだ図書を選びました。学生が選んだ本はとても好評です。今後も続けていきたいと思ひます。

その他、赤穂市立図書館で開催されている「おたのしみ会」・図書館主催のデータベース講習会や図書館ガイダンスなど、本誌に掲載されていることで質問がありましたら、お気軽に図書館スタッフまでお問い合わせください。(S)